

特集

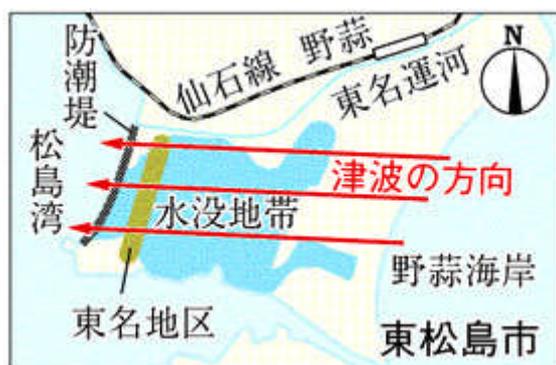
陸側から防潮堤破壊 津波、陸地2キロ突き抜ける 東松島



野蒜海岸方向(右奥)から押し寄せた津波。1階天井付近まで浸水している＝3月11日午後4時ごろ、東松島市東名(渡辺りえさん撮影)



防潮堤(破線部分)が内側から破壊され、海水に漬かったままの東名地区。左奥が松島湾。中央の茶色い部分はがれき＝12日、東松島市



東日本大震災で、宮城県東松島市の野蒜海岸を襲った津波がそのまま陸地を東西に約2キロ突き抜け、松島湾に流れ込んでいたことが分かった。松島湾に面した防潮堤は、陸側から破壊されていた。

防潮堤近くの東名地区の自宅2階にいたアルバイト渡辺りえさん(25)によると、津波は東側の野蒜海岸方向から押し寄せた。防潮林の松や家屋、車をのみ込み、松島湾へと流れていった。

渡辺さんが携帯電話のカメラで撮影した写真を見ると、建物の1階の天井付近まで水が来ている。「死を意識した」と渡辺さん。直後、津波は野蒜海岸の方向へ引いていったという。

高さ3メートルの松島湾の防潮堤は800メートルのうち南側約500メートルが決壊した。津波の流れや防潮堤が倒れた方向などから、東松島市防災交通課は「陸側から壊されたとみられる」と分析する。東名地区の南側にあった防潮堤も破壊されており、同様に陸側から力が加わった可能性が高いという。

東名地区周辺の水田78ヘクタールは、防潮堤の決壊で海水が入り込み、今も水に漬かったままだ。材木や漁具が浮き、捜索活動は難航。潮位によっては住宅地の道路も冠水する恐れがある。

市によると、東名地区の周辺は塩田として利用されてきた経緯があり、1950年代に大規模な水田開発が行われた。もともと土地が低いことに加え、地震による地盤沈下も指摘されている。

市建設課は「東名の防潮堤は、松島湾からの津波を考えて設置した。野蒜側から津波が押し寄せるとは全く想定していなかった」と話している。

(野内貴史、土屋聡史)

2011年04月14日木曜日